

E&E Report

Environment & Energy

Vol.51
2015.3

映画「パンドラの約束」上映 〈原子力・エネルギーについて考える〉

環境問題から原子力・エネルギーについて考えるドキュメンタリー映画「パンドラの約束」の上映を、県経済団体連合会とともに主催し、福井シネマにて9月から10月の約1カ月にわたり実施しました。

「パンドラの約束」は、原子力の可否を環境問題の視点に立って、福島県やチエルノブイリ（ウクライナ）など世界各地での取材を基に検証したドキュメンタリー映画で、原子力の果たす役割について冷静に考えるきっかけにしていたくことを狙いとしたものです。

主催者側では新聞等による広告



映画の案内ポスター・チラシと招待券(右上)

や、会員の方々への招待券送付などにより、約2千名の方にご鑑賞いただき、事後のアンケートでは、「原子力についての認識をあらたにした。」「今後、原子力の報道等々を注意深く見守っていきたい。」「といったご意見をいただきました。



第8回 福井県経済界サマースクール (共催)
日本・地域・企業はどこへ進むべきか！
～次なる成長戦略を探る～
日 時:平成26年8月27日(水)～28日(木)
場 所:勝山東急ハーヴェストホテル(スキージャム勝山)



経済政策の展望と企業の次の一手について語る、左から川田会長、立岡次官、益子社長と進行役の江夏氏

毎年8月、福井県勝山市を舞台に開催する「福井県経済界サマースクール」を県経済団体連合会、県商工会議所連合会と共催で開催しました。

第8回を迎えた今回は、「日本・地域・企業はどこへ進むべきか！～次なる成長戦略を探る～」をテーマに掲げました。

各界一流の講師陣を招いて、地域経済をリードする企業経営者、行政幹部、大学関係者等150名が集まり、次なる成長戦略について熱く議論しました。

「経済政策の展望と企業の次の一手」というテーマの鼎談では、経済産業事務次官の立岡恒良氏、三菱自動車工業(株)取締役

井県知事、村山氏による対談がフリーアナウンサーの馬場典子氏をモデレーターに行われました。

社長の益子修氏、県経済団体連合会(当懇話会)の川田達男会長の3氏により、これからの経済政策の見通しと企業の戦略について話し合われました。



福井の新しい扉というテーマで対談する、左から村山氏、西川知事とモデレーターの高橋氏



チャールズ・ファーガソン氏

ボストン大学物理学博士・修士、米海軍兵学校(物理学)卒業。国家核安全保障局、米外交問題評議会シニアフェローなどを経て、2014年より現職。2008年より日米原子力ワーキンググループ協同議長を務める。専門は核拡散、軍艦、核エネルギー、核テロなど。

アメリカ科学者連盟会長のチャールズ・ファーガソン氏による講演会を、福井県国際交流会館にて実施しました。福島第一原発事故後の原子力に対する国際社会の認識をふまえ、日本の原子力・エネルギーについて、現状と課題をお話いただきました。

最初に、原子力発電所の概要について紹介。日本とアメリカは原子炉に関して似ていると指摘しました。そして、現在の日本では運転している原子炉は一炉もないが約48機が運転可能、そのうち再稼働に向けて審査中の原子炉は20機で、福島第一原子力発電所と同型である福井県の高浜原子力発電所も再稼働の可能性があるため、福井県民にとって重要な時期だと話しました。

米科学者による原子力・エネルギー特別講演会

主催：福井県経済団体連合会 共催：福井県環境・エネルギー懇話会

- ◎日時 平成26年10月3日(金)
- ◎会場 福井県国際交流会館 多目的ホール
- ◎講師 アメリカ科学者連盟 会長 チャールズ・ファーガソン氏
- ◎演題 原子力・エネルギーの日本の常識・アメリカの常識
- ◎後援 経済産業省、福井県、福井大学、福井工業大学
- ◎参加者 200名



チャールズ・ファーガソン氏による講演模様。同時通訳方式で行い、大勢の参加者が真剣に耳を傾けていました。

次に、事故の重要な教訓として①安全神話を払拭する②一般市民に信頼できる情報を提供し、重要な意見を持つことができるようにする③強力かつ独立した規制当局の構築に重点的に取り組む④国会にNRAと産業界を監督する十分な能力を持たせる⑤産業界の安全性およびパフォーマンス改善に向けて、アメリカや日本の各発電所がピアレビューを活用する、の5つを挙げました。事故後のアメリカでの動向や、日米間での連携に向けた動きについても触れました。

また、日本は事故を経験した根強い不安感から原発反対の立場を取るようになったが、賛成・反対には経済の問題が絡んでいると指摘。アメリカは日本のパートナーシップなくしては原子力発電所をつくることができず、他の諸国もまた、日本の貢献を必要としていると述べました。最後に、世界で大きな原発事故があったのは、日本とアメリカとウクライナ(旧ソ連)だけで、他国が日米の経験を学べることを願っていると締めくくりました。



原発の安全神話を払拭し、安全監視を徹底することが必要、と訴えるファーガソン氏

自衛隊小松基地・北陸電力志賀原子力発電所視察研修会

主催：福井県経済団体連合会 共催：福井商工会議所、福井県防衛協会

- ◎日時 【1回目】平成27年2月17日(火) 【2回目】2月24日(火)
- ◎会場 自衛隊小松基地、北陸電力志賀原子力発電所
- ◎主管 福井県環境・エネルギー懇話会
- ◎参加者 59名(2回合計)



自衛隊小松基地でF15戦闘機の説明に熱心に聞き入る参加者の皆さん



北陸電力志賀原子力発電所

自衛隊小松基地と北陸電力志賀原子力発電所の視察研修会を県経済団体連合会等とともに実施し、2月17日と24日の2回で合計59名の方が参加しました。

今回の視察研修会は、安全保障、原子力防災等の観点から、自衛隊についての理解を深めることも、原子力発電所の安全対策に関する取り組みへの認識を新たにすることを目的に実施したものです。

自衛隊小松基地では、最初に基地の概要についての説明を受けた後、F15戦闘機や救難隊飛行機などの実機を間近に見学し、参加の皆さん方はその威容に圧倒された様子でした。

北陸電力志賀原子力発電所では、福島での事故を受けて安全対策の強化に取り組んでいる状況を目の当たりにして、熱心に案内担当者に質問するなど、日頃の疑問点を整理し、理解を深めていました。

新しいエネルギー基本計画についての勉強会

主催：福井県環境・エネルギー懇話会、福井県経済団体連合会

- ◎日時 平成26年5月1日(木)
- ◎会場 福井商工会議所ビル コンベンションホール
- ◎講師 経済産業省資源エネルギー庁 次長 井上 宏司氏
- ◎演題 新しいエネルギー基本計画について
- ◎参加者 51名



井上 宏司(いのうえ・こうじ)氏
1984年東京大学卒業後、通商産業省(現経済産業省)入省、ハーバード大学留学後、資源エネルギー庁資源・燃料部政策課長、大臣官房会計課長などを経て、2012年より2014年まで資源エネルギー庁次長。現在、地域経済産業審議官。



今後のエネルギー政策の方向性などについて、参加者との熱心な質疑応答が続いた

4月に国の新しいエネルギー基本計画が閣議決定されました。エネルギー基本計画は中長期のエネルギー政策の指針となるもので、国の経済再生、国民生活の安定などに関わる重要な問題です。当懇話会と県経済団体連合会では、資源エネルギー庁次長の井上宏司氏を講師に迎え、この新しいエネルギー基本計画の勉強会を開催し、員を中心に51名の方に参加いただきました。今後のエネルギー政策の方向性など、参加の皆様にとって関心の高い事項を中心に熱心な質疑応答が行われ、エネルギー問題に関する理解を深めていました。

わかりやすく学ぶエネルギーセミナー

主催：福井県環境・エネルギー懇話会、福井県経済団体連合会

- ◎日時 平成27年2月10日(火)
- ◎会場 ユアーズホテルフクイ 芙蓉の間
- ◎講師 広島大学大学院教授 奥村 晃史氏
- ◎演題 活断層と原子力発電所
原子力規制委員会の安全審査を考える
福井商工会議所
- ◎後援
- ◎参加者 140名



原発の敷地内破砕帯の問題について、可能性の推定は科学的判断ではないと話す奥村教授

地震と活断層研究の第一人者である奥村晃史氏を招き、原子力発電所の破砕帯の問題に関する講演会を開きました。奥村氏は、日本原電敦賀原発2号機直下の破砕帯を「活断層」と認定した原子力規制委員会の判断を、誤りだと指摘する専門家の一人です。

奥村氏は、活断層を手がかりに地震の発生や規模を予測することは可能だが、破砕帯は活断層ではないと解説。破砕帯調査では、破砕帯だけを見て地震を起こす活断層かどうかの判断が求められるため大変難しいと指摘し、活断層の定義である12〜13万年前以降の活動性の有無を調べることも極めて困難としました。また、IAEAの指針を受けて原子力安全委員会が「活断層の可能性が推定される場合は、安全側

の判断を行うこと」という文言を盛り込み、福島事故後の新しい規制基準では「断層の露頭がないことを確認する」としたが、「ここ10年、強い地震動が起きても断層変位が起きた例はないと述べました。

続いて、奥村氏が関わってきた原発施設設計の指針見直し、バックチェックの背景について話しました。島根原発設置の際、近くにある活断層を認めず審査を通したことや、敦賀原発において1970年代から活断層の存在が指摘されていたにもかかわらず認められたことが、多くの研究者が不信の念を持つ根源になったと説明。しかし2007年に活断層を認めて申請を改定してからは、故意に近い見落としはなくなってきたと話しました。



奥村 晃史(おくむら・こうじ)氏
1987年東京大学大学院修了、通商産業省(現経済産業省)工業技術院地質調査所研究員、広島大学大学院文学研究科助教授などを経て、2004年より現職。世界各地での調査活動を通して地震と活断層の研究に取り組む当分野の第一人者。

質は全電源喪失と巨大津波であり、地震動被害は軽微だったとし、活断層も破砕帯も全く無関係だと訴えました。しかし、一カ月後の浜通り地震により活断層問題が表面化し、そうしたなか原子力規制委員会が発足。敦賀原発が活断層上にあるとされたが、彼らが活断層の可能性を証明したわけではなく、原発の「活断層ではない」という判断が間違っている可能性を否定できないと言っているにすぎないと批判しました。また、不確定、不確定で多くの意見が分かれる問題を、きちんと審査・評価できるシステムが存在しないことが極めて重大とし、多様性を取り入れて開かれた議論をすることが大事だと説きました。



澤 昭裕(さわ・あきひろ)氏

1981年一橋大学卒業後、通商産業省(現経済産業省)入省、技術環境局環境政策課長、資源エネルギー庁資源・燃料部政策課長、東京大学先端科学技術研究センター教授などを経て、2007年より現職。国内外のエネルギー事情やエネルギー政策に精通している当分野における第一人者。

「話」をテーマに、エネルギー基本計画やエネルギーミックスにおける検討課題、再生エネルギーや原子力の安全の問題などについて詳しく紹介。エネルギー政策の3つの目標として①安定

経済産業省資源エネルギー庁委託事業 第15回エネルギー・環境教育セミナー

主催:経済産業省 資源エネルギー庁

主管:福井県環境・エネルギー懇話会・公益財団法人 日本科学技術振興財団 後援:福井県教育委員会、福井市教育委員会

◎日時 平成26年11月20日(木)
◎場所 福井商工会議所ビル コンベンションホール
◎内容

- 基調講演
演題:「知らないではすまされないエネルギーの話」
講師:21世紀政策研究所 研究主幹 澤 昭裕氏
- 実践・事例発表
エネルギー環境教育に取り組む学校からの実践事例発表
発表校I:長岡京市立長岡第四小学校(京都府)
発表校II:神戸大学附属中等教育学校明石校舎(兵庫県)

- パネルディスカッション
テーマ:これからのエネルギー・環境教育について考える
パネラー:長岡京市立長岡第四小学校 教務主任 松尾 博史氏
神戸大学附属中等教育学校明石校舎 教諭 坂口 真樹氏
越前市武生第一中学校 教諭 竹澤 秀之氏
21世紀政策研究所 研究主幹 澤 昭裕氏
コーディネーター:京都教育大学 教授 山下 宏文氏
- 総合講評 京都教育大学 教授 山下 宏文氏

◎参加者 県内教育関係者 51名

経済産業省資源エネルギー庁の委託を受け、福井県内の教育関係者らを対象に、エネルギー・環境教育の実践を支援するセミナーを開催しました。今回で第15回目となり、理科・社会担当の教諭ら約50人が参加しました。経済産業省資源エネルギー庁の大



基調講演で原子力発電所の再稼働問題について図解を用いてわかりやすく説明する澤氏



パネルディスカッションでは、これからのエネルギー・環境教育について活発な議論が交わされた

実践事例発表では、長岡京市立長岡第四小学校と神戸大学附属中等教育学校明石校舎の取り組みについて、担当教諭から紹介がありました。両校とも、数年前にエネルギー環境教育実践校に指定されており、カリキュラム内容や具体的な活動について

訴えました。供給②経済性③環境問題を示したうえで、「エネルギー政策にはたった一つの正解があるわけではないことを意識して、教育活動に取り組んでほしい」と



実践事例の発表を行う長岡第四小学校の松尾教諭



総合講評を語る山下宏文氏

【山下先生講評要旨】

基調講演では、他ではあまり聞けないところまで踏み込んでいただいた。実践事例発表ではエネルギー教育の一つの在り方を、パネル討論ではヒントや手だてをお示しいただいたと思う。2011年以降、エネルギー環境教育は新しい局面を迎えている。エネルギー環境教育が育てようとしている資質は、今求められている学力を身につけていくために有効だろう。

山下 宏文(やました・ひろふみ)氏

1982年東京学芸大学大学院修了後、東京都の公立小学校教諭、京都教育大学教育学部助教授などを経て2002年より現職。専門は環境教育、社会科教育。日本エネルギー環境教育学会顧問、日本教材学会常任理事。他、2003年より当懇話会の専門委員会である環境・エネルギー教育問題懇話会の座長。

て詳しい報告がなされました。パネルディスカッションでは京都教育大学の山下宏文教授をコーディネーターに、両校の教諭と、福井県で唯一、経済産業省のエネルギー教育モデル校に選ばれた越前市武生第一中学校の竹澤教諭、澤昭裕氏の5人が意見を交わしました。竹澤教諭は、「理科や社会などの教員15名でエネルギー教育推進委員会を立ち上げた。エネルギー教育「モデル校」なので、他の学校のモデルになるような取り組みがしたい」と述べました。最後に、山下氏による総合講評をいただき、閉会となりました。



最近の原子力政策の動向について語る櫻本部長

4月に閣議決定された新しいエネルギー基本計画の概要や、再稼働に向け準備を進めている県内をはじめ全国の原子力発電所の状況や、その審査にあたっての規制委員会の対応等について、わかりやすく説明されました。

福井県環境・エネルギー懇話会 平成26年度総会卓話

主催:福井県環境・エネルギー懇話会

◎日時 平成26年6月5日(木)
◎会場 福井商工会議所 特別会議室
◎講師 福井県安全環境部長 櫻本 宏氏
◎演題 最近の原子力政策の動向について
◎参加者 20名

当懇話会の平成26年度総会の卓話として、福井県安全環境部長の櫻本宏氏を講師にお迎えし、「最近の原子力政策の動向について」というテーマで講演いただきました。



高村 昇(たかむら・のぼる)氏

1997年長崎大学大学院医学研究科終了。同大学准教授などを経て2008年より現職。専門は放射線影響学、被曝医療学など。チェルノブイリ原発事故後の現地での医療協力にも携わる。2011年より福島県放射線健康リスク管理アドバイザー、川内村健康アドバイザーも務める。

一方、福島県民を対象としたアンケート調査の結果、健康障害への不安を抱えている人が多いことにも触れ、住民の判断材料と

東京電力福島第一原発事故により、一時全村避難した福島県川内村の復興支援に取り組む長崎大学の高村昇教授と同大学院生の折田真紀子さんを招き、「正しく知ろう! 福島の今」復興支援に学ぶ放射線と健康への影響」をテーマに講演会を開催しました。川内村は、2012年1月に福島県内初の「帰村宣言」を行い、復興を進めています。長崎大学と川内村は協定を結び、

また、福島原発事故後、暫定基準値を設定し食品や水の流通を制限したことで内部被ばくのリスクが低減したことを、健康調査のデータを基に解説。今のところ甲状腺がん発症のリスクは高くない、としました。

「正しく知ろう! 福島の今」長崎大学高村教授・折田保健師講演会
主催: 福井県環境・エネルギー懇話会 共催: 福井県経済団体連合会

- ◎日時 平成26年4月22日(火)
- ◎会場 福井商工会議所ビル コンベンションホール
- ◎講師 長崎大学 原爆後障害医療研究所 教授 高村 昇氏
長崎大学 大学院生(保健師・看護師) 折田 真紀子氏
- ◎演題 「正しく知ろう! 福島の今 ~復興支援に学ぶ放射線と健康への影響~」
- ◎参加者 350名



高村教授による講演の後、引き続き、教え子の折田保健師による講演が行われた

2013年に「長崎大学・川内村復興推進拠点」を開設。住民の健康相談などを行い、復興に協力しています。



折田 真紀子(おりた・まきこ)氏

2013年長崎大学大学院保健学専攻修了。同年より高村教授指導のもと保健師・看護師として「長崎大学・川内村復興推進拠点」に常駐し、住民目録の復興支援に取り組む。2014年2月にはIAEA(国際原子力機関)の専門家会議において、川内村での取り組みについての講演を行った。

拠点施設の責任者で、長崎大学原爆後障害医療研究所の高村昇氏は、「放射線と健康への影響」福島の復興と現状」をテーマに講演。被ばくした線量を理解することの重要性を訴えました。そのうえで、チェルノブイリと福島原発事故による放射性物質を比較。福島の放射性物質量はチェルノブイリの約1/7ですが、放射性物質の種類は似ており、約9割が放射性ヨウ素であると指摘。甲状腺がんを起す危険性を示しました。

川内村復興推進拠点に常駐している大学院生の折田氏は、保健師として住民支援している取り組みを紹介。震災復興と新たな町づくりを進めるうえで、地元行政機関の職員と、放射線に関する専門知識を持つ医療従事者や科学者などが連携を取り、きめ細かい支援を行うことの必要性を訴えました。

して、測定結果や今まで分かっている科学的知見などを正しく伝えることが重要だ、と述べました。

長崎大学 復興推進拠点 / IAEAも注目する川内村からの現地レポート

正しく知ろう! 福島の今

復興支援に学ぶ放射線と健康への影響

平成26年 4月22日(火) 13:30~15:10

福井商工会議所ビル 地下 コンベンションホール

高村 昇氏 (長崎大学 原爆後障害医療研究所 教授)

折田 真紀子氏 (長崎大学 大学院生(保健師・看護師))

無料

新聞広告



国際人になるための3つの秘訣について語る平田氏

エネルギー国際情勢学習支援事業 平田竹男氏講演会 in上中中学校

主催: 福井県環境・エネルギー懇話会

- ◎日時 平成26年10月30日(木)
- ◎会場 上中中学校(若狭町)
- ◎講師 内閣官房参与、2020年オリンピック・パラリンピック東京大会推進室長 早稲田大学大学院 スポーツ科学研究科教授 平田 竹男氏
- ◎演題 「国際人になるために」
- ◎後援 若狭町教育委員会
- ◎参加者 上中中学校 全校生徒 233名



平田 竹男(ひらた・たけお)氏

1982年横浜国立大学卒業後、通商産業省(現経済産業省)入省。プロリーグ化検討委員会に参加し、リーグ発足に尽力。2002年退官後、日本サッカー協会専務理事に就任し、2006年より早稲田大学大学院スポーツ科学研究科教授。2013年からは内閣官房参与および2020年オリンピック・パラリンピック東京大会推進室長も務める。

グローバル社会を生き抜くための国際的視野を身につけてもらうことを目的に、若狭町上中中学校にて「国際人になるために」をテーマに講演会を企画しました。講師は、2020年オリンピック・パラリンピック東京大会推進室長を務める平田竹男内閣官房参与です。経済産業省時のエネルギー資源交渉や日本サッカー協会のスポーツ外交、現在のオリンピック推進室長としての取り組みなどの経験から、国際人になるために何が必要なのかを分かりやすく話してくださいました。

平田氏は、国際人になるための秘訣として、「本番に力を発揮するため、風邪をひかない」「自分が育った町の良さや自然を知り、説明できるように」「自分のことや将来の夢など、何でも話せる友達をつくる」の3つがあれば、日本人は世界で大いに活躍できると述べました。また、東京オリンピックが開催される6年後の2020年には、生徒たちが20歳前後になっていることを示し、その時に自分はどうしているのか、どのようにしたいのかを考えて、それに向かって努力してほしいと訴えました。

講演会・セミナー・イベント

「正しく知ろう! 福島は今」長崎大学高村教授・折田保健師講演会

◎日時 平成26年4月22日(火)
 ◎会場 福井商工会議所ビル コンベンションホール
 ◎演題 「正しく知ろう! 福島は今」
 ～復興支援に学ぶ放射線と健康への影響～
 ◎講師 長崎大学 原爆後障害医療研究所 教授 高村 氏
 長崎大学 大学院生(保健師・看護師) 折田真紀子 氏
 ◎主催 福井県環境・エネルギー懇話会
 ◎共催 福井県経済団体連合会
 ◎参加者 350名



新しいエネルギー基本計画についての勉強会

◎日時 平成26年5月1日(木)
 ◎会場 福井商工会議所ビル コンベンションホール
 ◎演題 「新しいエネルギー基本計画について」
 ◎講師 経済産業省資源エネルギー庁 次長 井上 宏司 氏
 ◎主催 福井県環境・エネルギー懇話会、福井県経済団体連合会
 ◎参加者 51名



福井県環境・エネルギー懇話会平成26年度総会卓話

◎日時 平成26年6月5日(木)
 ◎会場 福井商工会議所ビル 特別会議室
 ◎演題 「最近の原子力政策の動向について」
 ◎講師 福井県安全環境部長 櫻本 宏 氏
 ◎主催 福井県環境・エネルギー懇話会
 ◎参加者 20名



第8回福井県経済界サマースクール

◎日時 平成26年8月27日(水)～28日(木)
 ◎会場 勝山東急ハーヴェストホテル(スキージャム勝山)
 ◎演題 「日本・地域・企業はどこへ進むべきか!」
 ～次なる成長戦略を探る～
 ◎講師 経済産業事務次官 立岡 恒良氏、
 三菱自動車工業㈱ 取締役社長 益子 修氏、
 福井県知事 西川 一誠氏、農木賞作家 村山 由佳氏、
 フリーアナウンサー 馬場 典子氏、福井県経済団体連合会 川田 達男会長
 ◎主催 福井県経済団体連合会、福井県商工会議所連合会
 ◎共催 福井県環境・エネルギー懇話会
 ◎参加者 150名



映画「バンドラの約束」上映

◎日時 平成26年9月20日(土)～10月17日(金)
 ◎会場 福井シネマ
 ◎内容 「バンドラの約束」
 (環境問題から原子力を考えるアメリカのドキュメンタリー映画)
 ◎主催 福井県環境・エネルギー懇話会
 福井県経済団体連合会
 ◎視聴者 1,988名



米国科学者による原子力・エネルギー特別講演会

◎日時 平成26年10月3日(金)
 ◎会場 福井県国際交流会館 多目的ホール
 ◎演題 「原子力・エネルギーの日本の常識・アメリカの常識」
 ◎講師 アメリカ科学者連盟 会長 チャールズ・ファーマーソン氏
 ◎主催 福井県経済団体連合会
 ◎共催 福井県環境・エネルギー懇話会
 ◎後援 経済産業省、福井県、福井大学、福井工業大学
 ◎参加者 200名



北陸技術交流テクノフェア2014

◎日時 平成26年10月16日(木)～17日(金)
 ◎会場 福井県産業会館、福井県生活学習館、
 福井県中小企業産業大学など
 ◎テーマ モノづくりのスペシャリストたちが
 夢のある未来へ導く
 ◎内容 展示会、記念講演会、技術相談、商談会、他
 ◎共催 技術交流テクノフェア実行委員会(当会も委員)
 ◎来場者 18,950名



わかりやすく学ぶエネルギーセミナー

◎日時 平成27年2月10日(火)
 ◎会場 ユアーズホテルクワイ 美善の間
 ◎演題 「活断層と原子力発電所」
 原子力規制委員会の安全審査を考える!
 ◎講師 広島大学大学院 教授 奥村 晃史氏
 ◎主催 福井県環境・エネルギー懇話会、
 福井県経済団体連合会
 ◎後援 福井商工会議所
 ◎参加者 140名



視察・見学会

自衛隊小松基地・北陸電力志賀原子力発電所 視察研修会

◎日時 [1回目]平成27年2月17日(火)、[2回目]2月24日(火)
 ◎場所 自衛隊小松基地、北陸電力志賀原子力発電所
 ◎主催 福井県経済団体連合会
 ◎共催 福井商工会議所、福井県防衛協会
 ◎主管 福井県環境・エネルギー懇話会
 ◎参加者 59名(2回合計)



広報

会報E&E Reportの発行(vol.51号)

◎仕様 タブloid版6頁
 ◎内容 平成26年度の主な事業活動、取り組みについて掲載
 ◎発行日 平成27年3月31日



教育支援

第15回 エネルギー・環境教育セミナー

(経済産業省資源エネルギー庁の委託事業)
 ◎主催 経済産業省 資源エネルギー庁
 ◎主管 福井県環境・エネルギー懇話会
 公益財団法人 日本科学技術振興財団
 ◎後援 福井県教育委員会、福井市教育委員会
 ◎日時 平成26年11月20日(木)
 ◎場所 福井商工会議所 コンベンションホール
 ◎内容 ①基調講演
 演題:「知らないではすまされないエネルギーの話」
 講師:21世紀政策研究所 研究主幹 澤 昭裕 氏
 ②実践事例発表
 エネルギー・環境教育に取り組む学校からの実践事例発表
 発表校Ⅰ:長岡京市立長岡第四小学校(京都府)
 発表校Ⅱ:神戸大学附属中等教育学校明石校舎(兵庫県)
 ◎パネルディスカッション
 テーマ:これからのエネルギー・環境教育について考える
 パネラー:長岡京市立長岡第四小学校 教務主任 松尾 博史氏
 神戸大学附属中等教育学校明石校舎 教諭 坂口 喜啓氏
 越前市武生第一中学校 教諭 竹澤 秀之 氏
 21世紀政策研究所 研究主幹 澤 昭裕 氏
 コーディネーター:京都教育大学 教授 山下 宏文氏
 ④総合講評 京都教育大学 教授 山下 宏文氏
 ◎参加者 県内教育関係者 51名



エネルギー国際情勢学習支援事業

平田竹男氏講演会 in 上中中学校

◎日時 平成26年10月30日(木)
 ◎会場 上中中学校(若狭町)
 ◎受講者 上中中学校 全校生徒233名
 ◎演題 「国際人になるために」
 ◎講師 平田竹男氏
 ◎講師 内閣府参加
 2020年オリンピック・パラリンピック東京大会推進室長
 早稲田大学大学院 スポーツ科学研究科教授
 ◎主催 福井県環境・エネルギー懇話会
 ◎後援 若狭町教育委員会



環境・エネルギー教育問題懇談会

①◎日時 平成26年7月30日(水)
 ◎会場 福井商工会議所ビル 特別会議室
 ◎議題 環境・エネルギー教育支援事業について
 第15回エネルギー・環境教育セミナーの企画について
 ◎出席者 委員11名
 ②◎日時 平成27年2月27日(金)
 ◎会場 福井商工会議所ビル 特別会議室
 ◎議題 第15回エネルギー・環境教育セミナーの開催結果について
 次回セミナーの方向性について
 ◎出席者 委員11名



◆編集後記◆

当会会報のE&E REPORTも年度の取り組みをまとめてこのような形で発行するもの5回目となりました。
 その年々の事業計画は、時宜に応じていると手を替え品を替え取り組んできましたが、その中で、当会設立以来変わらずに継続して実施している事業が、今回で15回目を迎えた教育関係者対象のエネルギー・環境教育セミナー(経済産業省委託事業)です。
 「変えていくもの」と「変えてはいけないもの」を見極めながら、新たな年度の取り組みをスタートしたいと思います。